

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 瑞穂会	代表者	手嶋 寛人	法人・ 事業所 の特徴	高齢者家族の利用者・家族が働きながら介護をされている利用者・訪問リハビリを 利用されている利用者など多様な利用者を受け入れ在宅生活・在宅介護の支援を行っ ている。利用者や家族の状態、状況変化や要望に応じての通い・泊りや利用時間の変 更等にも柔軟な支援を心掛けている。
事業所名	小規模多機能 やはぎ苑	管理者	後藤 恒祐		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団 体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	2人	3人	人	1人	1人	人	人	2人	9人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・ 結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評の 確認	事業所自己評価項目を通して多 機能での支援の方向性や介助を 意識して支援に取り組む。	事業所自己評価項目を通して多機 能の支援の方向性等を意識して介 助・支援に取り組むことが概ねで きた。	・改善計画への取組みは、どのくらいの期間行 ったものなのか？ (昨年度に立案した改善計画を1年間実施してい る。)	今回できている項目を継続しつつ、で きていない地域との関りや質の向上に ついて意識して業務に取り組む。
B. 事業所の しつらえ・環境	利用者の思いに配慮しながら、安全 で居心地の良い環境整備を行 う。	むやみに利用者を苑内に閉じ込め ることはせずに、利用者の安全に 配慮しつつ、なるべく思いを尊重 した環境整備に取り組むことがで きた。	・特になし	事業所内の衛生管理・環境整備を心が け、清潔で居心地の良い事業所作りに 取り組む。また、感染症対策にも配慮す る。
C. 事業所と地域の かかわり	感染状況を考慮しながら、日中活 動等できる事から地域との関り を深める取り組みを進める。	コロナ禍に於いて、なかなか地域 との関りを持つことができなかつ た。	・地域から行事のお誘いを受けることがある か？ (お誘いを受け、参加させていただくこともあ る。コロナ禍で、地域行事の中止や感染防止の為 に参加を見送る期間が長くなり、地域と施設双方 の関りに関する機会やノウハウが失われつつあ ると感じる。)	日中活動や地域行事への参加を通して 利用者・職員が地域との繋がりを意識 し支援・介助に取り組む。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	はしめ包括や矢田さん（お米作 り）等できる所から連携・協力し 取り組んでいく。	はしめ包括や案山子作りを通して 矢田さん（お米作り）とは連携・協 力はできたが、その他の機関との 関りは難しかった。	・様々な施設で、地域との関りを持とうとしてい るが、逆に地域は地域内にある施設と関りを持 とうとする動きが少ないと感じる。施設と地域の双 方が関りを持とうとする動きが必要だと思う。	地域にある地域資源の一つとして、包 括や町内会等の様々な機関と連携協力 をする。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	運営推進会議を通してサービス 評価を行い、事業所の取組みや 改善点を報告・相談する。	運営推進会議を通してサービス評 価を実施することができ、多機能 の現状報告等を行うことができ た。	・1年単位での役で参加し、2～3回の会議出席の みでサービスの評価をするのは困難を感じる。	運営推進会議を通して小規模多機能へ の理解が深まるように施設見学の機会 を設ける等改善を行う。
F. 事業所の 防災・災害対策	地震や火災だけではなく地域の 特性でもある水害についても防 災意識を高め訓練を重ねる。	今年度は実際に市内でも豪雨被害 があり、水害に対する意識を高め つつ防災訓練を行うことができ た。	・車椅子などの方の避難は大変ではないか？ (避難所等への避難は困難が多く、水害に対して は垂直避難を考えて、訓練を行っている) ・防災頭巾などの備えはあるか？ (防災頭巾はあるが、十分な数は用意できていな い。)	実際に利用者も参加しての屋外や垂直 避難の訓練を行う。